

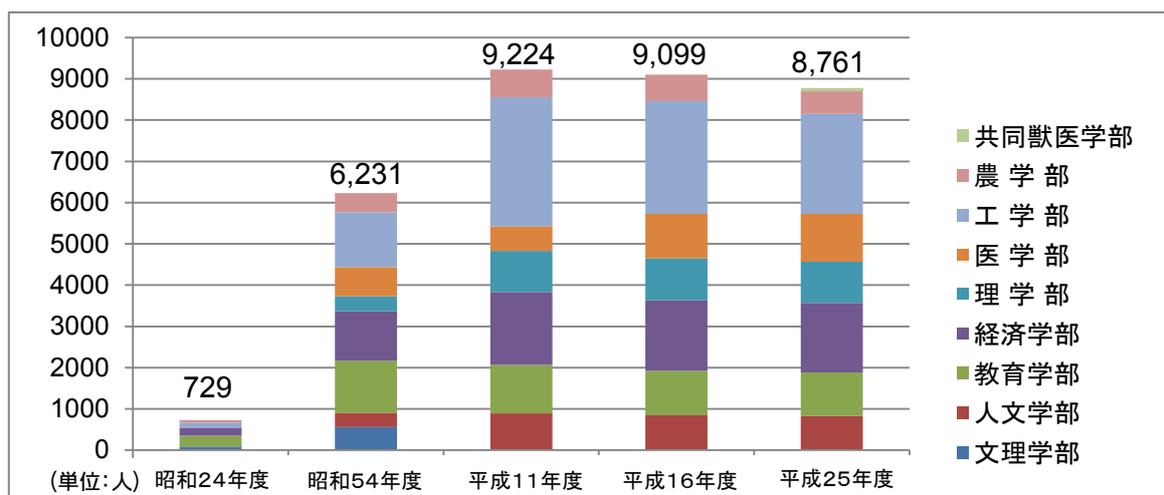
数字で見る学生生活

昭和24(1949)年の山口大学発足から現在までの学生生活の移り変わりは、数字からも見えてくる。山大発足の昭和24(1949)年、30周年の昭和54(1979)年、50周年の平成11(1999)年、法人化した平成16(2004)年、平成25(2013)年現在を基準に比較してみたい。各数値は、主に大学要覧と学生生活実態調査報告書から抜粋した。

学生生活実態調査は、昭和29年度に第1回が実施され、3～5年に1回、現在まで継続して調査が行われている。第1回の調査は、学生の生活実態を健康面を中心に把握し、実状に即した適切な健康管理の方策を立て、そのために必要な衛生施設の整備を行うことを目的として実施された。現在は、様々な角度から学生の現状を把握し勉学の環境改善を考えるため、調査分析が行われている。

学部学生数

学部学生数は、学部の増設に伴い年々増加したが、少子化の影響もあり、平成19年度をピークに減少傾向で推移している。



※昭和24年度は大学一覧、以降は大学要覧より



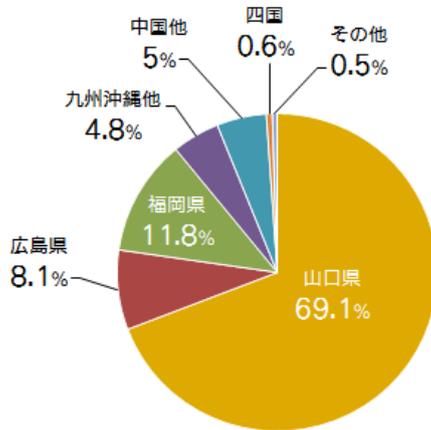
第1回入学式(昭和24年)



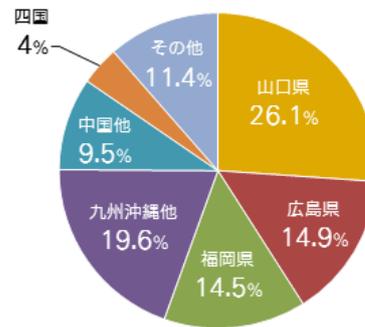
第65回入学式(平成26年)

学生の出身地

昭和29年、第1回学生生活の実態調査が行われた。調査当時、学生の県内外出身者の割合は、県内出身者が約70%を占めていた。学部別に見ると、教育学部は約90%が県内出身者で占め、反対に県外出身者の多いのは経済学部、工学部、農学部だった。現在は県外出身者が増加しており、それに伴い下宿・寮生の割合も増加していることがわかる。



昭和29(1954)年

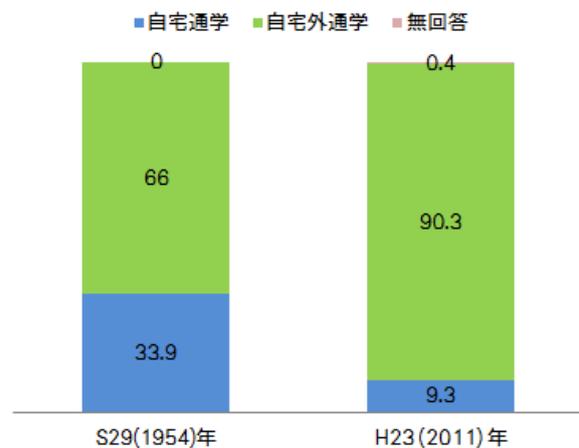


平成23(2011)年

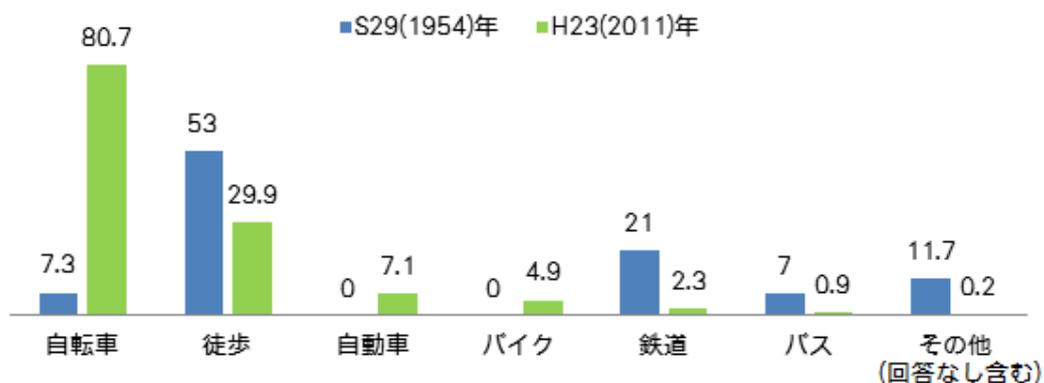
自宅通学生と下宿・寮生の割合

平成23(2011)年の学生生活実態調査と、平成23年度住宅・土地統計調査(総務省)から算出した結果、山口市の賃貸住宅の約1/5は山大学生が借りている計算になる。

さらに、約80%が自転車で通学しており、通学時間に関する設問では、通学に要する時間が20分以内と回答したものが92.4%で、大半の学生が大学にかなり近いところに居を構えていることがわかる。



通学に利用する交通機関



山大生の学費・生活費

	昭和29(1954)年	平成23(2011)年
授業料	3,600 円(教育学部は免除)	535,800 円
受験料	400 円	17,000 円
入学金	400 円	282,000 円
アルバイト収入	150~250 円 / 日	50,000 円以上 / 月※
生活費(自宅通学生)	2,000 円 / 月	
生活費(寄宿舎生)	3,000 円 / 月	30,000~60,000 円未満 / 月※
生活費(下宿生)	3,500 円 / 月	

※『学生生活実態調査』の回答の最頻値

【参考】昭和24(1949)年の物価

銀行の初任給	3,000 円	ラーメン	23 円	週刊誌	15 円
教員の初任給	3,941 円	食パン	40 円	岩波文庫	30 円
自転車	7,345 円	ビール	126 円 50 銭	辞典	700 円

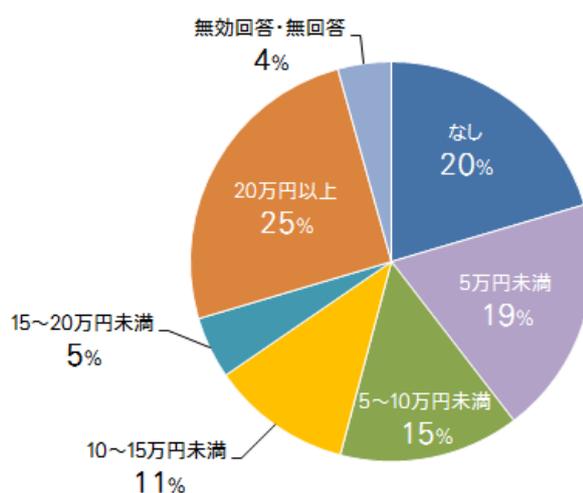
『値段の明治・大正・昭和風俗史 / 週刊朝日編』より抜粋

現在の学生の貯金額

貯金がある学生は全体の75.3%であった。貯金が無いと回答した割合は、男子のほうが女子よりもやや高かった。学年別で集計すると、20万円以上貯金している割合は、3年生が最も高かった。調査報告書では、就職活動に向けた貯蓄の影響と考察している。

生活白書	
A氏の不思議な学生生活	
〈下宿(6畳)・台所付き・風呂なし / 広島県S市出身〉	
収入	¥70,000
支送り	¥30,000
奨学金	¥26,000
アルバイト	¥14,000
支出	¥80,000
部屋代	¥13,000
光熱費	¥4,000
風呂代	¥2,000(3日に一度)
食事代	¥10,000(昼・夜2食分)
書籍代	¥5,000
趣味・娯楽・交際費	¥46,000
残高	-¥10,000(借金で埋合わせ)
B氏の暗い学生生活	
〈寮(4.5畳に2人) / 福岡県N市出身〉	
収入	¥46,000
支送り	¥35,000
アルバイト	¥11,000
支出	¥30,300
部屋代	¥6,300
食事代	¥15,000(昼・夜2食分)
書籍代	¥3,000
雑費	¥5,000
趣味・娯楽・交際費	¥1,000
残高	¥15,700(早速貯金にする)

昭和58(1983)年卒業アルバムより



平成23(2011)年

『第16回学生生活実態調査報告書』より